

巻頭言

この夏休みに、サマーセッションの視察等でボストンに行ってきました。そして土曜日と日曜日のフリータイムを珍しくゆったりと過ごすことができました。ヨーロッパや米国は日本と違って地震が少ないためか、石造りの建物が多いのですが、ボストンにも街中に歴史を感じさせる建物が多くあります。米国は、植民地時代を含めてもヨーロッパに比べるとその歴史は短いことは否めませんが、それでも都市の真ん中に最新のビルと300年前の建物が共存しているのは観ていて楽しいものです。古い建物だと思ったものが、中に入ると最新の設備に変わっていたりします。“がわ”だけを残して、内側には鉄骨も含めて完全なリノベーションが施され、エアコンやネット環境も整っているのです。一方で、建築当初からあまり変わっていないであろうと思われる建物も多くあります。確かに、使用されていますから手入れはされていますし、様々な改変はあるようですが、それでもエアコンが無かったり、ネット環境は外部からの電波に依存していたりします。どちらが良いと言うものでもなく、これらが混在して楽しい街の雰囲気を醸し出しているのです。

考えてみれば研究も同じで、20年以上も同じテーマで研究を行っている、つまり20年前と同じ見掛けをしているものも沢山あると思います。にもかかわらず、中身をよく観てみると、測定や解析手法は20年前とは全く異なっていて、まるで別の研究領域としか思えない様なものもあります。逆に、連綿と蓄積されてきた成果に、同じ方法や解析を加えるものもあります。さらに、その蓄積に従いながらも、異なる考察が得られることも多々あります。その脇では新たな測定、解析方法や適用手段、研究領域も生まれてきます。新しい研究手法や研究領域や、一見華々しく見えるのですが、しばらくすると落ち着いて普通になってきます。そして、気が付くと、新たな手法や領域も今までずっと続いていた研究と融合したり取り込まれて、通常的手法や分野と同じ顔で進んでいたたりもします。ある分野では既に確立されて久しい研究手法が、今まで思いも寄らなかった領域で展開されることもあります。例えば生命科学の分野で用いられている解析方法が、文学の領域で展開される様な感じですが、どれが良いというものでもなく、様々なものが混在する環境が私達の研究を進める力になるとともに、その有り様こそが楽しいのではないかと思います。

本号は学科などの枠を超えた、全学からの論文が掲載される号です。力作揃いの論文が並んでいます。査読の方々からの厳しい要求にも応えています。普段は触れることの少ない隣の研究領域、どこか、はるか彼方の研究論文を覗いてみることが出来ます。同じ分野の論文はこれからの展望に役立つかもしれませんし、励みになるかもしれません。別の研究領域の論文では、方法や解析が何かの参考になるかもしれません。あるいは、単に楽しい読み物として迫ってくるかもしれません。そんな、扉を開けたら別の世界かもしれない学苑936号をお楽しみ頂ければ幸いです。

(テツヤ)